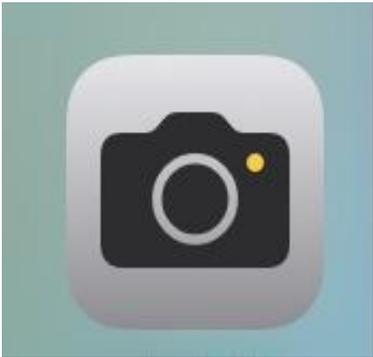
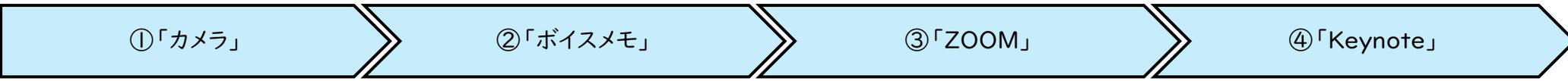


実践のタイトル		興味ある職業について調べ、情報を集めてプレゼンをする				端末	• iPad
広島県立広島中央特別支援学校		ICT活用の視点	<input checked="" type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため			OS	• iOS
<input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 単一障害 学部 ■小 □中 □高 学年 □1年 □4年 □2年 ■5年 □3年 □6年		<input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input checked="" type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input checked="" type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る				
教科等	総合的な学習の時間				学びの過程	ツールアプリ	• ZOOMアプリ • カメラアプリ • Keynote • ボイスメモアプリ
単元名	お仕事インタビューをしよう						
実践の概要	世の中にある視覚障害の職業について調べ、集めた情報をもとに身近な人や興味ある職業の人へインタビューを行い、仕事の意味、その職業の良さや工夫などを項目別に分けて、分かりやすく伝えられるようにまとめて発表することができるようにしている。						



「カメラ」を使用して授業に関する写真を撮り、記録用として残すことができる。また、録画をすることで児童が内容を振り返ることができる。

「ボイスメモ」を使用することで、録画用とは別に音声を重視した録音をすることができ、自分の発言を確認することもできる。

「ZOOM」を使用して、校内だけでなく、一般企業で働いている視覚障害者の方にオンラインでインタビューをすることができる。

「Keynote」を使用して、学習のまとめとして発表できるように、インタビュー内容をまとめることができる。

児童生徒の変容 アプリに関しては、日々使っているものでもあるため、学習上の困難さは見られなかったが、録音や録画をすることで内容の振り返りや確認を細かく行うことができた。また、回数を重ねることで、発問や受け答えについても自分自身で課題を見付け、次に生かそうとする姿が見られるようになった。

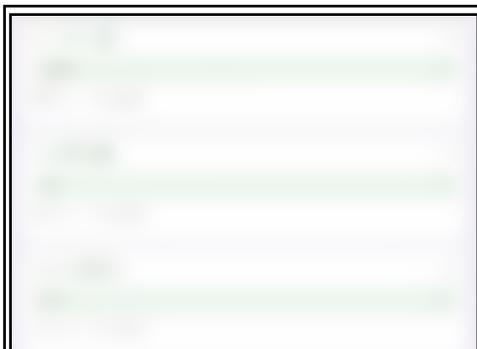
実践のタイトル		情報端末を使って効果的に学習しよう				端末	<ul style="list-style-type: none"> • iPad、PC
広島県立広島中央特別支援学校		ICT活用の視点		<ul style="list-style-type: none"> ■【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため ■【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため 		OS	<ul style="list-style-type: none"> • iPad OS • Mac OS
<ul style="list-style-type: none"> ■視覚障害 □聴覚障害 □知的障害 □肢体不自由 □病弱・身体虚弱 	類型 単一障害 学部 □小 □中 □高 学年 ■1年 □4年 □2年 □5年 □3年 □6年					学びの過程	<ul style="list-style-type: none"> ■関心を持つ、見通しをもつ ■調べる、集める □話し合う、交流する □分析する □発表する、表現する □振り返る
教科等	外国語(英語)						
単元名	Lesson7など						
実践の概要	弱視のため、紙媒体の教科書や板書では、ルーペや単眼鏡では見えにくかったり、確認に時間がかかるため、iPadで拡大し手元で自分で確認しやすくする方法で授業を進めることにした。						



単元の導入で外国の道路標識の写真を見てからわかることを発表した。教科書では小さくて見えにくいのでデジタル教科書をMeetで提示し、生徒は自分で拡大しながら確認した。



新出単語の学習時には、デジタル教科書を拡大し、Google Meetで提示し、生徒は自分が見やすいサイズに拡大をしながら学習を進めた。



単語テストをGoogle Formsを使って行っている。これにより、自分で見えやすいサイズに拡大することができ、取り組みやすくなっている。採点もすぐできるため、自宅での復習も取り組みやすい。

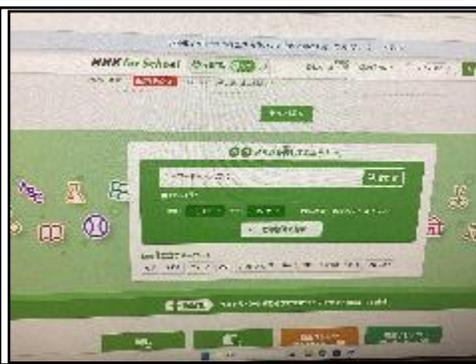
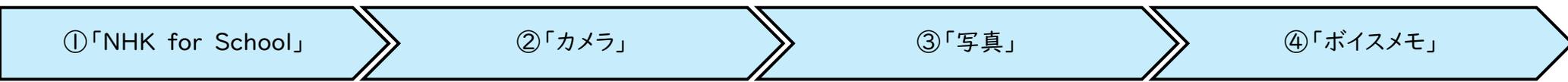


自分の考えなどを表現する際、英語で表現が難しい時は、Google翻訳やChat GPTを使用し、英語でどのように表現するか確認をした。その中で新しい表現を知り、次の学習につなげている。

児童生徒の
変容

今年度の初めから必要に応じて、これらのツールを使用して授業を行っているが、操作にも慣れ、画面の拡大でも分りにくい時は、自分で判断してルーペなど視覚支援機器を使用して学習に積極的に取り組むようになってきた。

実践のタイトル		視覚障害と知的障害を併せ有する生徒にイメージや見通しをもたせる				端末	<ul style="list-style-type: none"> iPad
広島県立広島中央特別支援学校		ICT活用の視点		<ul style="list-style-type: none"> ■【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため □【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため 		OS	<ul style="list-style-type: none"> iOS
<ul style="list-style-type: none"> ■視覚障害 □聴覚障害 ■知的障害 □肢体不自由 □病弱・身体虚弱 	種類 重複2型						
教科等		生活単元学習		学びの過程		ツールアプリ	<ul style="list-style-type: none"> カメラアプリ ボイスメモアプリ 写真アプリ NHK for School
単元名		季節の食事、行事、過ごし方					
実践の概要		季節（春、夏、秋、冬）の様々な文化について知ることを目標としている。視覚障害もあり生活体験も少ないため「動画」を活用して身近な食事、行事について理解し、他のアプリを活用して知り得た知識を発表することができるようにしている。					



「NHK for School」のアプリを活用して単元に関する動画を見て関心をもたせるようにする。動画を見ることで音や色などについて具体的に知ることができイメージをもつことができる。



「カメラ」を使用して授業に関わる写真を撮り、記録を残すことができる。文字を入力して記録を残せないの表現したいことを簡単に記録に残せる。



「カメラ」で記録した「写真」を確認することができる。写真を拡大することもでき、形や色など具体的に知ることができる。



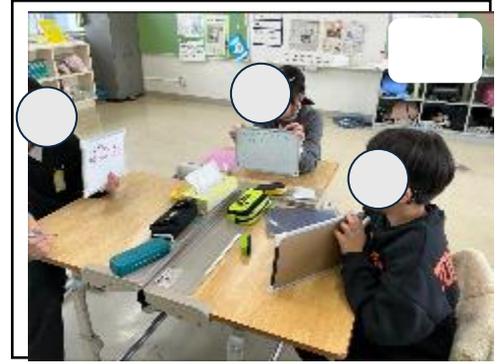
「ボイスメモ」を使用して、インタビューしたものを記録したり、自分の意見を音声で記録して、発表時に声を発することが難しい場合は音声を流すことで発表することもできる。

児童生徒の変容 普段の生活からテレビやYouTubeなどの動画を見ることには興味がある生徒なので授業で活用してみると、普段の授業ではあまり発語がない生徒が興味・関心を示して番組に出てくるキーワードなどを発声してしっかり表現することができた。

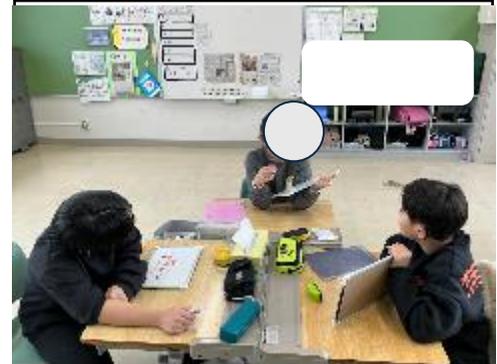
実践のタイトル		AIの画像生成機能を使った言葉の学習				端末	・ ノートパソコン、iPad				
広島県立広島南特別支援学校		ICT活用の視点		<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	・ Windows, iOS				
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部 <table border="1"> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/>小</td> <td rowspan="3">学年</td> <td><input type="checkbox"/>1年</td> <td><input type="checkbox"/>4年</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>中</td> <td><input type="checkbox"/>2年</td> <td><input type="checkbox"/>5年</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>高</td> <td><input type="checkbox"/>3年</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>6年</td> </tr> </table>							<input checked="" type="checkbox"/> 小	学年	<input type="checkbox"/> 1年	<input type="checkbox"/> 4年
<input checked="" type="checkbox"/> 小	学年	<input type="checkbox"/> 1年	<input type="checkbox"/> 4年								
<input type="checkbox"/> 中		<input type="checkbox"/> 2年	<input type="checkbox"/> 5年								
<input type="checkbox"/> 高		<input type="checkbox"/> 3年	<input checked="" type="checkbox"/> 6年								
教科等	自立活動	学びの過程		<input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input checked="" type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input checked="" type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る		ツールアプリ	・ Google Gemini				
単元名	言葉の学習										
実践の概要	Google Geminiの画像生成機能を使用して、言葉や文法の学習を行う。教師が生成した画像を提示し、どんな言葉（指示文）を入れたら提示されたものと同じ絵を生成することができるのか考え、交流をすることで、助詞や文法によるニュアンスの違いの理解や語彙の拡充を図る。										



児童は、ロタに「この言葉を入れたら良い」「～している。の形の文が必要」等、キーワードになりそうな単語や表現を、ロタに話していた。



「〇〇さんの言葉を使いたい」「〇〇さんと表現と合わせたら、良さそう」等、互いの文章を読み比べながら、文章を作り始める。



生成された絵を見て、「この言葉を変えた方が良い」「『～が』を『～を』に変えてみよう」と改善点を相談する。



「この言葉を入れたらどうなるだろう」と色々な言葉に変更して画像を生成し、表現の変化によるニュアンスの変化について興味をもつようになった。

児童生徒の変容 助詞への使い方の意識が低く、動詞の活用や表現の乏しさに課題があった。しかし実践後は、助詞の細かなニュアンスに注意をはらえるようになり、言葉の違いに興味をもつようになった。さらに辞書やインターネットで言葉の意味を調べる姿勢が身につく、表現の適切さを確認するなど、語彙力や文法意識の向上が見られた。

実践のタイトル		季節の自然をまとめる-Keynoteの活用-				端末	• iPad
広島県立尾道特別支援学校		ICT活用の視点		■【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	• 17.5.1
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部 <input checked="" type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高						
教科等	生活科		単元名 がっこう だいすき・なつが やってきた たのしいあき いっぱい		ツール アプリ • カメラ・Keynote・ • Googleレンズ		
実践の概要	校庭や学校周辺の公園で見つけた自然を季節ごとにまとめる活動を行った。児童がiPadで写真を撮り、Keynoteにまとめた。名前を知らないものも多く、撮った写真をGoogleレンズにアップロードして、名前を調べた。スライドには、写真と名前を載せ、いつでも振り返ることができるようにした。春・夏・秋と作り続け、児童は季節によって自然が違うことが分かった。特に秋の自然は、二つの写真を比べて自然の移り変わりにも気付くことができた。						



見つけた自然について、Keynoteで写真と名前を入れてまとめるということを見本を見せながら伝えた。児童は意欲的にiPadを用いて写真を撮った。写真を撮る時には、「この花の名前は何かな。」「後で調べようね。」と話した。



撮った写真を用いて、名前を調べた。図鑑を用いたり、教科書を見たりした。分からないものは、Googleレンズを用いて名前を調べた。撮った花と同じ写真が出てきた時には、「これこれ!この花!」と嬉しそうに記録していた。



スライドに「はる」とタイトルを付け、写真を挿入する場所と名前を記入する場所を指定し、児童が作業しやすいようにした。1つのスライドを教員と一緒に取り組むと、その他のスライドは、児童が自分で取り組んだ。



「あきみつけ」の前に、「夏に見つけたものは何だった?」と尋ねると、「ひまわりと、あさがおと、あとなんだっけ?」と言い、Keynoteを開いて確認していた。春と同様、夏・秋・冬も同じようにスライドを作ることができた。

児童生徒の変容
 児童は、入学当初季節の概念がなく、「春の花は?」と聞いても答えることができなかった。季節の概念を育てるために、自然の写真を撮ってKeynoteにまとめたり、季節の自然の図鑑を教室に置いたりして、いつでも手に取って調べたり、まとめたりすることができるようにした。児童は、今の季節の自然はどのようなものがあるか、iPadや図鑑を用いて調べたりまとめたりすることができるようになった。

実践のタイトル		面接での挨拶の仕方と受け答えの練習				端末	• iPad
広島県立尾道特別支援学校		ICT活用の視点		<input checked="" type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	• iOS 18.5
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高						
教科等	国語				ツールアプリ	• 写真(動画撮影)、ボイスメモ	
単元名	面接等のマナーを学ぼう						
実践の概要	生徒同士で受け答えをしている時の様子や礼の様子を動画で撮影し、声の大きさや言葉遣い、または礼の角度に着目する。						



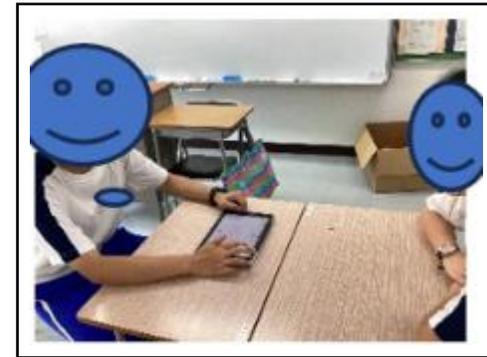
生徒が二人一組で面接の練習をする。その際にiPadの写真機能で、お互いの面接時の挨拶や受け答えの様子を動画で撮影する。



動画を使って映像の角度をチェックしたり、ボイスメモの波形が大きくなるように音量を調整したりして、お互いの課題を確認する。



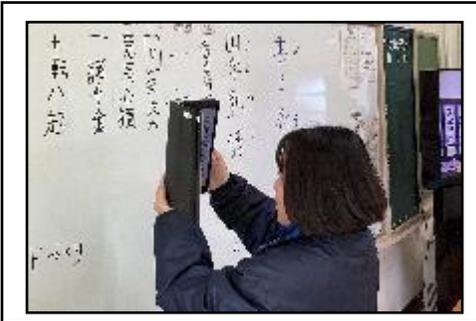
1回目の面接練習動画やボイスメモで確認した課題を意識しながら、改めて面接練習を行う。



1回目の動画と見比べて、課題となっていた箇所が改善できたか、互いに話し合って確認する。

児童生徒の変容 生徒たちはペアで練習を行い、礼の角度が浅い、声が小さいなどの改善点について、こうしたら良いと具体的なアドバイスをだしていた。2回目ではその助言を踏まえ、礼の角度を深くし、声の大きさにも気をつけるなど改善を実践。達成感からお互いを褒め合い、満足げな表情を浮かべていた。

実践のタイトル		卒業後の自立を支える日常使い 知的障害高等部のICT活用実践				端末	• iPad
広島県立尾道特別支援学校しまなみ分校		ICT活用の視点		<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	• iOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高						
教科等	国語 数学 美術 自立活動				学びの過程		<input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input checked="" type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る
単元名	お礼の手紙を書こう(国語) 余暇活動の計画を立てよう(数学) 自立した生活に向けて(生単)						
実践の概要	知的障害のある高等部生徒に、iPadを日常的に活用する実践を行った。学習や生活の中で困った場面に応じて、生徒自身が適切な機能やアプリを選択・活用することを大切に。文字の読み書きや情報収集、調べ学習などにiPadを取り入れることで、障害による困難さを補い、自立的に学びや生活を進めようとする力の育成を図った。						



読めない漢字があると、生徒はiPadのカメラで文字を撮影し、読み上げ機能を使って確認している。また文字を拡大表示し、形を確かめながら学習を進めた。「先生に聞かなくてもいい」と読むことへの抵抗感が減った。



実習のお礼状を書く際、メモアプリで文章を入力し、教師の添削を受けた後に手書きで清書をした。家で書いた文章をAirDropで学校のiPadに送ることもあった。間違えてもすぐに消せるから安心と書くことに前向きになった。



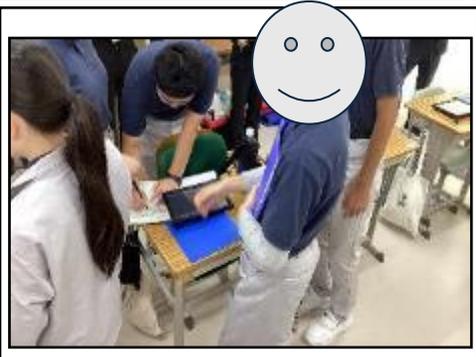
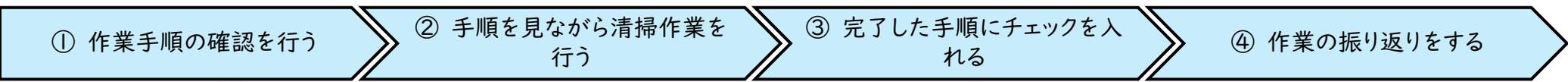
校外学習や卒業後の生活を見据え、バスの時刻表や料金をiPadで調べた。必要な時間や金額を確認し、療育手帳を所持している場合は半額と、電卓機能で計算する姿が見られた。将来は乗り換えアプリを使って県外の親戚の家まで行く目標を立てている。



Canvaアプリを使い、製品販売の値札やポスター、招待状を作成した。色や写真、文字の配置を工夫しながら、完成させた。「きれいにできた」「お店みたい」と表現することへの意欲が高まり、主体的に活動に取り組むことができた。

児童生徒の変容
iPadの活用により、困難な場面で適切な機能やアプリを選び、自ら解決する力を身に付けることができた。文字の読み書きでは読み上げ機能や拡大機能で漢字を読み書きすることへの困難さを減らし、時刻表や料金の計算では公共交通機関の利用を調べる方法を身に付け、卒業後の目標へとつながった。これらを通じて、生徒は卒業後もデジタル機器を日常生活に活用し、自ら困難を克服する力を養い、より豊かな生活を送るための基盤を築くことができた。

実践のタイトル		iPadで“見える化”する清掃手順 ~ICT活用による作業の質と協働性の向上~				端末	• iPad第10世代
広島県立広島特別支援学校		ICT活用の視点		<ul style="list-style-type: none"> ■【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため ■【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため 	OS	• iOS	
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 単一 I	<input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高	学年 <input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	学びの過程 <ul style="list-style-type: none"> ■ 関心を持つ、見通しをもつ □ 調べる、集める ■ 話し合う、交流する □ 分析する ■ 発表する、表現する ■ 振り返る 	ツールアプリ	• Googleスプレッドシート	
教科等	作業学習(清掃・流通)						
単元名	校内清掃・事務作業						
実践の概要	教室清掃の手順をスプレッドシートで提示することで、清掃手順を各生徒が把握しながら作業ができました。また、作業の進捗状況を共有できることで、作業への見通しをもって活動することができました。						



清掃開始前にスプレッドシートで手順を確認し、生徒同士で役割や順序を検討したり把握したりします。全員が同じ情報を共有することで、作業の効率と質、協働して作業に取り組む意識を高めます。



iPadで手順を参照しながら清掃を進めます。視覚的に確認できるため、迷わず作業でき、清掃の抜けや重複を防ぎます。手順をデジタル化することで、清掃箇所ごとの手順を瞬時に検索できたり、手順変更や改善が即時に反映できたりします。



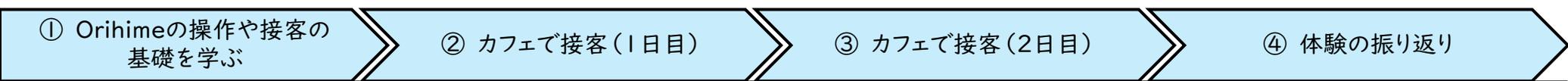
作業が終わったらスプレッドシートにチェックを入れます。進捗が全員に共有され、残り作業の見通しが立ち、効率的かつ主体的に自らの役割を思考・判断し、協力して正確な作業をしやすくなります。



清掃後に進捗や手順を振り返り、改善点を確認します。ICTを活用することで記録や学びの履歴を適時に確認することができ、次回の活動に生かしたり、蓄積した学びを振り返ったりすることができます。

生徒の変容 ICTを活用した清掃活動により、生徒は作業手順を主体的に確認し、協力して進捗を共有する姿が見られました。見える化によって役割分担が明確になり、効率的に作業を進める力が向上しました。また、振り返りを通じて改善点を考える習慣が育ち、責任感や協働性が高まりました。

実践のタイトル		接客の新しいかたち ~分身ロボットOriHimeを活用した体験的学び~				端末	<ul style="list-style-type: none"> • OriHime • iPad第10世代
広島県立広島特別支援学校		ICT活用 の視点	<ul style="list-style-type: none"> ■【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため ■【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため 			OS	<ul style="list-style-type: none"> • iOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 II 類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高 学年 <input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年		学びの過程	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める ■ 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する ■ 発表する、表現する ■ 振り返る 			ツール アプリ
教科等	総合的な探究の時間						
単元名	進路学習						
実践の概要	分身ロボット「OriHime」を活用し、遠隔操作による接客体験を行いました。生徒はロボットを通じて来客対応を実践し、挨拶や案内などのコミュニケーションを学びました。ICTを用いることで、身体的制約を超えた接客の新しい形を体験し、対話力やホスピタリティの重要性を理解する機会となりました。 ※OriHimeは株式会社オリィ研究所の登録商標です。						



オンラインでの自己紹介後に先輩オペレーターからOriHimeを使った接客の特徴や、「カフェのしくみ」「店員として働く心構え」など、基礎的なスキルを教えてくださいました。



OriHimeを操作し、来客への挨拶や注文対応を体験します。初めての実践で緊張しながらも、接客の流れを学びました。



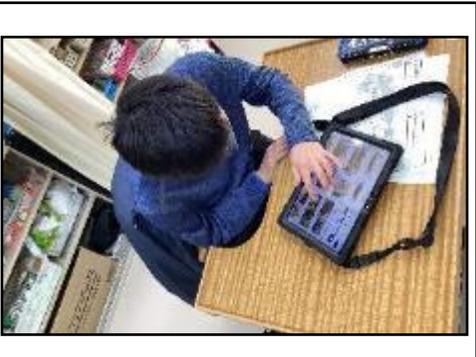
接客2日目、お客様とフリートークを行うことができ、アドリブに対応できるようになってきました。



挨拶のタイミングや言葉遣い、操作のスムーズさを振り返り、改善策を考えました。ICTを活用した接客の可能性や、自分の成長を実感する場となりました。

生徒の変容
OriHimeを活用した接客体験を通じて、生徒はICTを使った新しいコミュニケーション方法に積極的に取り組む姿勢を見せました。遠隔での接客という非日常的な状況に挑戦する中で、言葉遣いや表現力を工夫し、相手を思いやる対応を意識するようになりました。また、振り返りを通じて自分の課題を見付け、改善策を考える力が育ち、協働性や主体性が向上しました。

実践のタイトル		操作も理解もあきらめない! ICTで実現するインクルーシブな学び				端末	• iPad第10世代
広島県立広島特別支援学校		ICT活用の視点	<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため			OS	• iOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 肢体不自由部門Ⅱ類型 知的障害部門単一Ⅱ					学部 <input type="checkbox"/> 小 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高	学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年
教科等	様々な授業での活用						
単元名							
実践の概要	本実践では、身体的・認知的な困難を抱える生徒に対し、ICTを活用した学習支援を行いました。両手での画面操作が難しい半身まひの生徒には、音声コマンドでカメラのシャッターを操作できる仕組みを導入し、活動への参加を促しました。また、漢字の読みが困難な生徒には、読み上げ機能を活用し、教材理解を支援しました。これらの取組により、個々のニーズに応じた学びの保障と、ICTによるインクルーシブな教育環境の実現を目指しました。						



スイッチコントロールを使うことで、画面のいずれかをタップすると特定の操作を行うことができます。自分の意思で操作できる喜びを感じ、学習への意欲が高まりました。



音声コントロールを使うことで、画面操作が難しい生徒が「シャッター」の声でカメラを操作できるようになりました。自分で操作できる達成感から笑顔が増え、学習に前向きな姿勢が見られました。



字を読むことが難しい生徒は、読み上げ機能を使うことで文章理解がスムーズになり、課題への取組が自信をもってできるようになりました。教師への質問が減り、授業の流れもスムーズになりました。



手の震えで細かい操作が難しい生徒にタッチコントロールを活用したところ、画面操作が安定し、自分で課題を進める達成感を得ました。操作の成功体験により、学習意欲と集中力が高まりました。

生徒の変容

iPadの各種アクセシビリティ機能を活用することで、操作や理解に困難があった生徒が自分で課題を進められるようになり、達成感と自信を獲得し、学習意欲が高まりました。

実践のタイトル		好きな音を聞いて、自分から手を動かそう				端末	• iPad
広島県立福山特別支援学校		ICT活用の視点		<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	• iPadOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 III類型	学部 <input checked="" type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input checked="" type="checkbox"/> 6年	学びの過程 <input checked="" type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る		ツールアプリ	• Blue2FT、あそべビー
教科等	算数						
単元名	さわってみよう						
実践の概要	自分の好きな音を聞いて、もう一度聞きたいと自分から手を動かすことができることを目標に活動した。初めは手添えと一緒に活動し、自分が手を動かすと好きな音を鳴らすことができるということに気付くことができるようにする。支援を止めて音が鳴らない時間を作り、音を鳴らしたいという気持ちを子どもがもてるようにする。						



これからする活動に見通しをもたせ、明確にする。児童の好きな音を手添えと一緒に押して遊び、児童の意欲を高める。



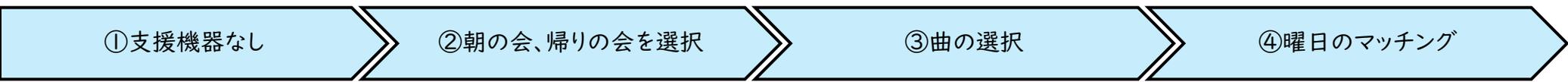
手添えをやめ、音を止める。もう一度聞きたいと自分から手が動くのを待つ。



児童の動きが止まったり、飽きたようであればスイッチや音を変え(音の出る教科書、あそべビー、Blue2FTによるYoutube)、繰り返し活動を行う。

児童生徒の変容
 初めは何をするのかわかっておらずフリーズしていたが、繰り返し行うことにより手を動かすと好きな音が鳴るということに気付き、自ら探索をしようとする姿が見られた。後半になると、初めほどの新鮮さが無くなり少し落ち着いている感じもあったが、それでも手はしっかり動かすことができたと思う。視界がほとんど見えていないが、音は良く聞こえているので、自分の好きな音を利用して、もっと自分からの働きかけが増えていけたらと思っている。

実践のタイトル		「一人で役割を果たそう」					
広島県立福山特別支援学校		ICT活用の視点		<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		端末	• iPad
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 II 類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	学びの過程		<input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る		OS	• iPadOS
教科等					ツールアプリ		• DropTap
単元名	日常生活の指導						
実践の概要	朝の会や帰りの会でiPadを用いて操作し、会を進めることができる。						



支援機器なしで会を行っている様子。ホワイトボードを見るだけでは見通しをもちづらく、教師の支援がないと会を進めることが難しかった。



iPadでDropTapを操作。状況にあったファイルを選択する。ここでは4つのファイルから「朝の会、帰りの会」を選択し、司会を行う。



ボタンを押すと、朝の会と帰りの会の歌が流れる。会にあった曲を選択し、押すようにしている。



ホワイトボードに提示している曜日のカードと画面を見比べ、正しく曜日をマッチングをさせ、ボタンを選択する。

児童生徒の変容 当初は教員からの言葉掛けの支援を受けながら、教員と一緒に会を進めていたが、定着後は得意なiPad操作を活用し、最初から最後まで一人の力で自信をもって会を進めることができるようになった。

実践のタイトル		スイッチを使用したICT機器操作 ～朝の会の活動から移動支援まで～			端末	・ iPad
広島県立西条特別支援学校		ICT活用 の視点	□【視点1】教科指導の効果を高めたり、 情報活用能力の育成を図ったりするため ■【視点2】障害による学習上又は 生活上の困難さを改善・克服するため		OS	・ iOS
□視覚障害 □聴覚障害 □知的障害 ■肢体不自由 □病弱・身体虚弱	類型 III		■小 □中 □高	学年 □1年 ■4年 □2年 □5年 □3年 □6年	ツール アプリ	・ Keynote、DropTap、ファイル ・ Blue2、棒スイッチ、ビッグスイッチ、 スペックスイッチ、指先スイッチ（自 作） ・ 電動化装置（1号機、3号機）（自 作）
教科等	生活活動、自立活動		学びの過程	■関心を持つ、見通しをもつ □調べる、集める ■話し合う、交流する □分析する □発表する、表現する □振り返る		
単元名	朝の会、自立活動					
実践の概要	本実践は、スイッチ操作を通して上肢機能と指先巧緻性の向上、因果関係の理解の促進等をめざしたICT活用の取組である。朝の会において、iPadアプリ「Keynote」での司会進行や「Drop Tap」を用いたコミュニケーション活動を実施した。アクセシビリティ機能のスイッチコントロールやショートカットアプリを活用し、車椅子電動化装置のスイッチ操作を経て、段階的に経験を積んでいった。現在は、両手でのスイッチの使い分けや、スイッチのオン・オフを自在に操作することを最終課題として取り組んでいる。					



朝の会の司会進行に「Keynote」とアクセシビリティ「スイッチコントロール」を活用した。ペットボトルキャップで厚みを調整したスペックスイッチや自作のスイッチを両手の手のひらに装着し、手指の開閉で操作できるようにした。何度もスライドを進めて友だちや教員とのやりとりを楽しむ様子が見られた。



「DropTap」をスイッチコントロールで操作し、廊下で出会う教師や友人等と挨拶できるようにした。右手と左手のスイッチに異なるセリフを設定し、「おはよう」を連呼したり、話を要求したりするなど積極的に他者と関わり、笑顔で対応する様子が見られた。また、肘を固定してビッグスイッチ操作も開始した。



上腕を固定することで姿勢が安定したため、スイッチを用いず、iPadの画面を直接タップできるようにした。自在に操作するとはいかないまでも、画面を左右2等分したエリアをタップし分けることができ、意欲的に上肢を動かして操作する姿が見られた。スイッチ装用が不要となり、座位保持車椅子の机上環境が整理された。



空間認知能力や因果関係理解、選択的注意力の向上を目的に車椅子電動化装置を導入した。1号機ではスイッチのオン・オフで進行・停止を操作し、3号機では両手のスイッチで前進、旋回の移動が可能となった。行きたい場所に視線を向けてスイッチ操作を考える様子も見られ、意識的なスイッチ操作と周囲への注意を促している。

児童生徒の変容
手指の開閉動作によるスイッチ操作から開始し、両手での使い分けやタブレットの画面の直接タップ操作が可能となった。朝の会では自発的にスライドを進めて司会進行を行い、「DropTap」では積極的に他者へ挨拶や話し掛けを行うなど、コミュニケーション場面での主体的な関わりが増加した。車椅子電動化装置では、右手と左手のスイッチを使い分けて旋回・前進を行い、目的地に視線を向けてスイッチ操作を止めるなど、意図的な操作と周囲への注意が見られた。一連の取組により、上肢機能と指先巧緻性が向上し、達成感や自己肯定感の高まりが確認された。スイッチ操作の正確性を更に高めるための活動を段階的に計画していく予定である。

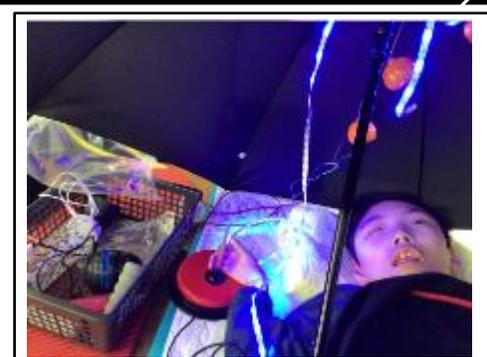
実践のタイトル		スイッチを通して外界を感じよう				端末	• iPad
広島県立西条特別支援学校		ICT活用 の視点	□【視点1】教科指導の効果を高めたり、 情報活用能力の育成を図ったりするため ■【視点2】障害による学習上又は 生活上の困難さを改善・克服するため			OS	• iOS
□視覚障害 □聴覚障害 □知的障害 ■肢体不自由 □病弱・身体虚弱	類型		Ⅲ	学年	□1年 □4年 □2年 ■5年 □3年 □6年	ツール アプリ	• ジェリービーンズスイッチ、ビッグマック、棒スイッチ、ステップバイステップ • 車椅子電動化装置（自作） • おもちゃ（光る、振動）、ハンドミキサー
教科等	音楽、自立活動	学部	■小 □中 □高		学びの過程		■関心を持つ、見通しをもつ □調べる、集める □話し合う、交流する □分析する ■発表する、表現する □振り返る
単元名	季節の音遊び（音楽） 自立活動						
実践の概要	学校で過ごす中で、覚醒できる時間を増やしていく。そのために、児童の興味があるものの中で刺激を感じ取りやすい音が鳴ったり振動したりするおもちゃや電池で動く機器を、スイッチで操作したりiPad等で表現したりし、児童が感じ取れる世界を広げていくことをねらいとしている。また、仰臥位や座位といった様々な姿勢をとりながらできる活動を増やしていく。						



音楽 季節の音遊び(夏)
太鼓叩き器をスイッチを使って操作した。ビッグマックを押したら、「ドンッ」や「カッ」と鳴る音に初めはびっくりしていた。「カッ」の音が連続して鳴ると笑顔が見られた。



音楽 季節の音遊び(秋)
机上にどっちもクリップ(ツイン)で、シンバルとハンドミキサー(改造)をつなぎ、棒スイッチを使って音を鳴らした。近くで「シャンシャン」「バリン」等のいろいろな音が鳴るのを楽しみながら、スイッチを操作することができた。



自立活動(仰臥位、座位)
黒傘内でのかぼちゃのイルミネーションやLEDをスイッチで操作して光らせた。LEDの強い光は特に興味をもったようで、目や首をよく動かして見ている。



自立活動(車椅子電動化装置)
スイッチを押すことで、電動化装置が車椅子を牽引して移動した。因果関係へのアプローチを狙っているが、通る道にガタガタの道や机に鈴を付けることで、より楽しく移動できるように工夫している。

児童生徒の変容
覚醒の頻度が低く、視覚での認知があまり高くないと言われていた本児に対して、スイッチを使った活動は前年度までも行われていた。ステップバイステップによる教師の音声や①や②等のスイッチを操作して聴覚から感じて覚醒することをねらった活動から始めると、スイッチを操作したり音が聞こえると右手の指を動かしたり覚醒することが増えスイッチを押そうとする動きも増えてきた。③のような仰臥位の姿勢でも、光る機器や振動するおもちゃをスイッチで操作して眠らずに活動を続けることができていた。スイッチを使った活動を本児に知らせると、右手を動かしたり口を動かしたりと活動へのやる気や意欲が見られるようになっていた。

実践のタイトル		視線入力装置を使って画面を注視する練習をしよう				端末	<ul style="list-style-type: none"> 視線入力装置Hiru 教職員パソコン
広島県立広島西特別支援学校		ICT活用 の視点		<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	<ul style="list-style-type: none"> Windows 11 Education
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input checked="" type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 III類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高 学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	学びの過程		<input checked="" type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る		ツール アプリ	<ul style="list-style-type: none"> PowerPoint Hiru内蔵のキャリブレーション機能等
教科等	自立活動						
単元名	個別の課題活動						
実践の概要	日常生活では視覚を活用して、興味関心により関わっている教師や画面を見ることがある。視線入力装置を活用して「見る」ことが意識され、タブレット端末等で様々な場面でコミュニケーションがとれる日常を将来的に目指すための実践。						



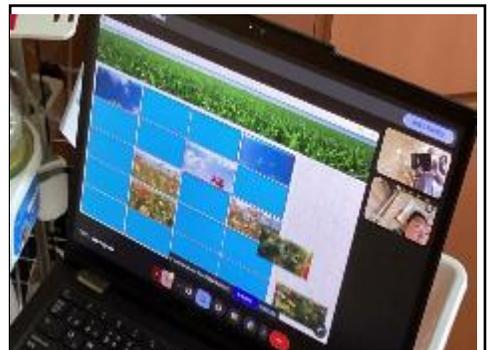
(活動) 本時では実態把握のためPowerPointで作成したパズルを一緒に行い、反応を観察した。
(生徒) 視覚を活用しているが、焦点が定まらなかったり、画面に視線を送る時間が短かったりした。



(活動) 視線入力装置Hiruを使用し、内蔵のキャリブレーション機能による点や風船等に視線を送ることをねらい、対象物への注視を促した。
(生徒) 画面の様々な箇所を見て、視線を送ることに少しずつ慣れてきているように感じた。



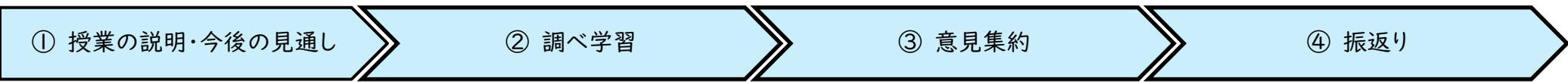
(活動) 画面を指差して注目を促すことを加え、再度パズルを行った。
(生徒) 目を動かすことが前回よりも多くなり、注視はまだ難しいが、指差しの方角に視線を動かし、対象物を見ようとする意識が感じられた。



(活動) GoogleMeetに接続したiPadを顔の近くに寄せ、顔の向きと合わせた状態でパズルを行い反応を観察した。
(生徒) 画面に視線を送り、じっと見る様子が多めに見られた。「見る」ことへ徐々に意識を向けるようになってきたと感じた。

児童生徒の変容
・対象物に視線を送ることは、今までに何度か見られたが、意識して「見る」ことについては、難しいと感じていた。この実践で視線入力装置を活用し、視線を送ることに少し慣れたことで対象物を見る回数が増えた。また、対象物への興味関心の度合いにより「見る」回数や時間が変化することも感じられた。今後、DropTalk等のアプリと入力支援機器を組み合わせたり、視線入力でのTemi等の遠隔操作ロボットの操作にもつながっていく可能性を感じた。

実践のタイトル		ICTを使用することでわかって動ける授業へ			端末	<ul style="list-style-type: none"> ノートPC iPad
広島県立廿日市特別支援学校阿品台分校		ICT活用の視点	<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高		学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	学びの過程 <input checked="" type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input checked="" type="checkbox"/> 調べる、集める <input checked="" type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る		ツール アプリ <ul style="list-style-type: none"> ワンノート クラスルーム トークアプリ フォーム
教科等	生活単元学習					
単元名	修学旅行へ行こう					
実践の概要	修学旅行の行先について個に対応したアプリを使用し、個人またはグループで調べ学習をし、スライドにまとめしおりを作成しました。作成したスライドをクラスルームで共有しました。					



文化祭

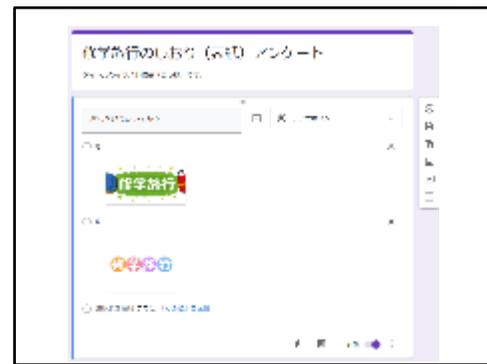
去年の文化祭では 何をてんじした？ 覚えてる？
↓
原爆ドーム
たまごめたいなやつ
新聞紙で作った

2年生 全員で今年も作る
むかさん 絵の具の色で気づいた
その通り！！！！
みやくみやく作るよ

難聴、視覚優位の生徒へむけて、また、見通しをもちやすくするためワンノートを使用し、授業の説明をした生徒から出た意見等もその場で打ち込みまとめたりする。



難聴の生徒との話し合いの際はトークアプリを使用する。



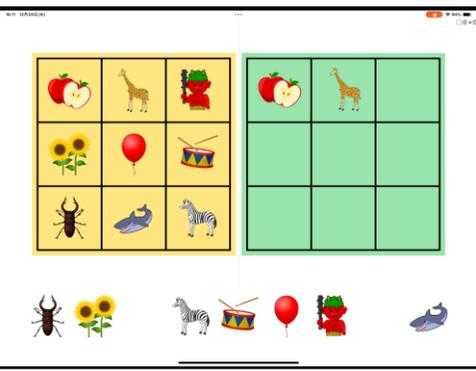
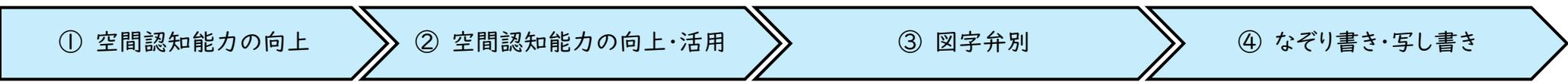
生徒がしおりの表紙のデザインに悩んでいた。フォームを使用して学年全体へアンケートをとった。

それぞれが調べたことをクラスルームで共有し感想を書き合った。調べたことをAppleTVを使用し学年全体へ説明する。
(写真はありません)

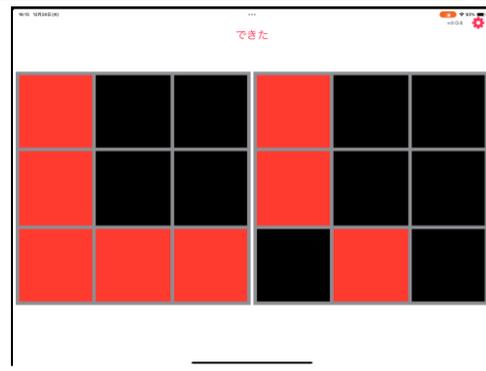
児童生徒の変容

ワンノートでの説明は、その場で出た質問等もわかりやすく全員に伝えることができるうえ、必要な箇所のみを提示することもできるので、活動を理解しやすく生徒の主体的な活動に繋がっていると考える。また、より多くの人の意見を聞く新しいコミュニケーションツールとしてフォームを使用することができている。ICTを活用することで生徒から、クラスルームで共有したい事項があるなど主体的な思考や活動に繋がっている。

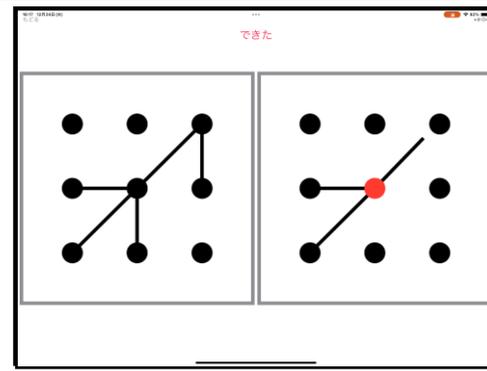
実践のタイトル		平仮名をよく見て書いてみよう				端末	・ iPad
広島県立福山北特別支援学校				ICT活用の視点	<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため	OS	・ iPadOS 16以降
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 単一障害	学部 <input checked="" type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	学年 <input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年			学びの過程	<input checked="" type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る
教科等	日常生活の指導						
単元名	朝の会						
実践の概要 日常生活の指導(朝の会)に設定されている「個別学習」の中で、自立活動の視点から実践を行った。具体的には、自作のアプリを活用し、児童が文字を書くために必要な力、見比べる、空間認知、目と手の協応、図自弁別等の能力の向上をねらった。その結果、簡単な文字であれば写し書きができるようになった。							



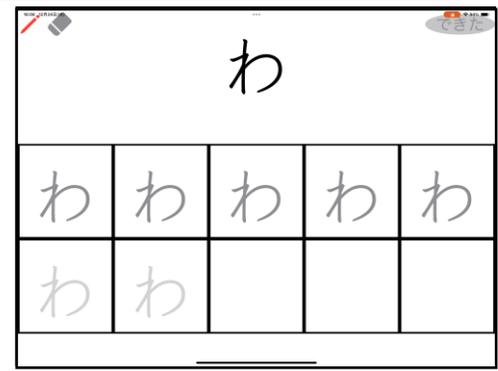
「位置マッチング」
 上下左右を感覚的に理解できるよう取り組んだ。初期は2×2マスから始め、1週間程度で3×3マスでできるようになった。



「点」
 位置マッチングより抽象的な課題。横1×縦3マスから始め、2×2、3×3と、徐々に難易度を上げていった。自動は何度も左右を見比べて取り組んでいた。



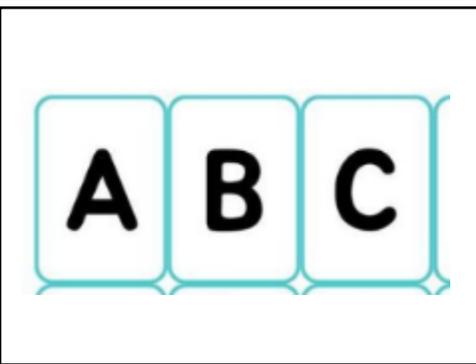
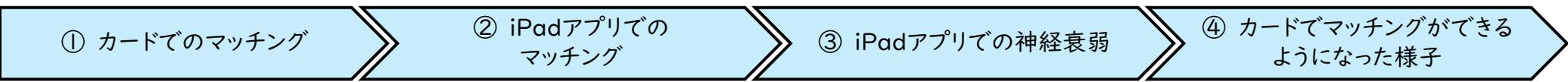
「点つなぎ」
 主に図字弁別の能力の向上をねらった。スモールステップで学習を進め、見本と回答スペースを見比べたり、線に選択的注意を向けたりする様子が見られた。



「ひらがななぞり」
 なぞり書き、写し書きに加え、書いている間だけ見本が消える「フェードなぞり」を作成。線を思い起こしながら書こうとする様子が見られた。

児童生徒の変容
 元々簡単な形のなぞり書きはできつつあったが、より線を意識して丁寧になぞることができるようになった。また、「い」「う」「こ」「し」「つ」などの簡単な平仮名について、文字を読み取ることができる程度に写し書きできるようになった。それらに加え、「見る力」が高まったことで、A4用紙1ページに35個イラストがあるコミュニケーションボードから、必要なイラストを探して選択し、要求を伝えることができるようになった。

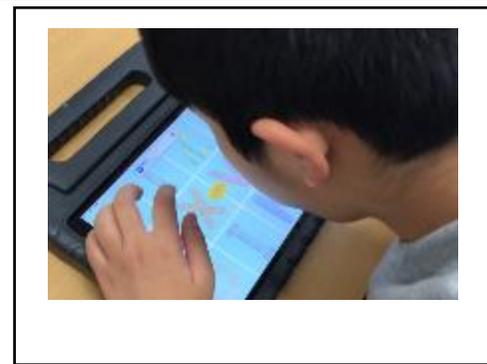
実践のタイトル		iPadアプリ「Playground」を活用したアルファベットの弁別学習について				端末	• iPad						
広島県立福山北特別支援学校		ICT活用 の視点	<input checked="" type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため			OS	• iOS						
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 単一障害学級 学部 <table border="1"> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/>小</td> <td>学年</td> <td><input type="checkbox"/>1年</td> <td><input type="checkbox"/>4年</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>中</td> <td></td> <td><input type="checkbox"/>2年</td> <td><input type="checkbox"/>5年</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>高</td> <td></td> <td><input type="checkbox"/>3年</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>6年</td> </tr> </table>							<input checked="" type="checkbox"/> 小	学年	<input type="checkbox"/> 1年	<input type="checkbox"/> 4年	<input type="checkbox"/> 中	
<input checked="" type="checkbox"/> 小	学年	<input type="checkbox"/> 1年	<input type="checkbox"/> 4年										
<input type="checkbox"/> 中		<input type="checkbox"/> 2年	<input type="checkbox"/> 5年										
<input type="checkbox"/> 高		<input type="checkbox"/> 3年	<input checked="" type="checkbox"/> 6年										
教科等	生活単元学習	学びの過程	<input checked="" type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る			ツール アプリ	• Playground						
単元名	アルファベットを見つけよう												
実践の概要	本校在籍職員が、iPadアプリ「Playground」内で作成している学習アプリを使用した実践。カードを注視できず、マッチング難しかった児童が、アプリを活用することで徐々にアルファベットを識別し、神経衰弱形式でマッチングできるようになる様子である。												



注視が難しく、無作為にカードを操作する様子。マッチングのルール自体は、他の学習で理解しているため、アルファベットの形を捉えられていないことや、形に対する関心の低さが原因と考えられる。



神経衰弱のアプリを使用して学習をしている様子。はじめは児童の興味のあるイラストを使用し、ペア数も1から始めた。iPadを注視し、スムーズにルールを理解することができた。



神経衰弱のアプリを利用して、8ペアのアルファベットをマッチングしている様子。ルールを理解し、次々と取り組む様子がみられた。



カードを使用して神経衰弱形式でマッチングをしている様子。カードのアルファベットを注視し、形を捉えていることがわかる。

児童生徒の変容
カードを注視することが難しかった児童が、アプリを使用することで、アルファベットの形を捉え、神経衰弱形式でマッチングをすることができるようになった。児童の好きなイラストを用いて練習をすることで注視やルールの理解促すことができた。またアプリの仕様によって、問題に取り組むペースが上がり、ストレスなく課題に取り組むことができた。

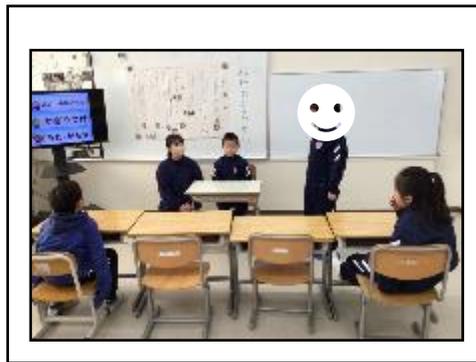
実践のタイトル		コミュニケーションアプリをつかったやりとり				端末	・ タブレット端末
広島県立三原特別支援学校		ICT活用の視点	<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため			OS	・ iOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部		<input checked="" type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	学年	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	<input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る	ツールアプリ
教科等	特別活動	学びの過程					
単元名	学級活動をしよう						
実践の概要	口頭でのやりとりは、発語に遅れがあって自分の気持ちを表現することが難しい実態がある。情報機器に興味があり、タブレット端末を使った指導を通年行っている。						

① 夏休みの思い出



写真アプリを使って、児童が自分の好きなものを指さしながら、発表している。

② お楽しみ会



お楽しみ会の中で、児童がドロップトークを使って、会の進行をしている。

③ 朝の会



朝の会の進行をドロップトークを使って、児童一人で行っている。

児童生徒の変容 自分のやりたいことをタブレット端末のドロップトークを使って、友だちとやりとりする場面が増え、絵カードを指さして自分の気持ちを伝えるようになった。

実践のタイトル		版画の手順を視覚的に理解しやすくするために				端末	・ iPad
広島県立三原特別支援学校		ICT活用 の視点	<input checked="" type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため			OS	・ iOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高					学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	学びの過程 <input checked="" type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る
教科等	美術						
単元名	版画をしよう						
実践の概要	「版画をしよう」の単元で、版画カレンダー作りをすることにした。版木づくり、印刷、色付け、製本などの各工程の手順を視覚的に理解しやすくするため、実際の工程を写真やイラストで示し、ポイントをテキストで強調しながら、その日の工程を理解して、版画カレンダーを作ることができた。						

① オリエンテーション



版画カレンダー作りの工程をGoogleスライドで説明した。

② 版木をつくろう



彫刻刀の使い方について、特に注意すべき点を強調して理解できるように努めた。

③ 印刷をしよう



インクをローラーで伸ばす方法について、スライドを見た後で実演を行い、ただ前後に動かすだけでなく、前に動かして空中を返ってくる動きについて説明を行った。

④ 色付けとハンコ付きをしよう

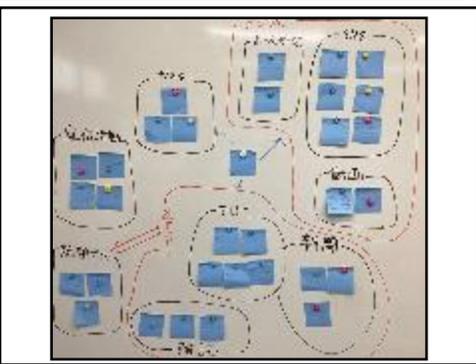
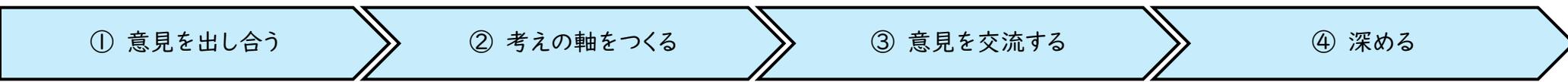


土・日・祝日の色付けや～月のハンコをつく方法を説明するために利用した。

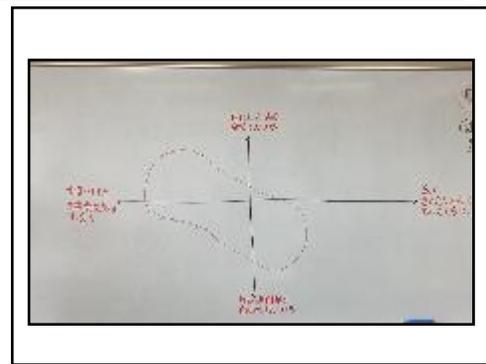
児童生徒の変容

各工程の手順を理解するまでは、自信がないようで時間もかかっていたが、スライドを見て確認しながら、作業を繰り返す中で、手順を理解し、自ら作品作りをすることができた。

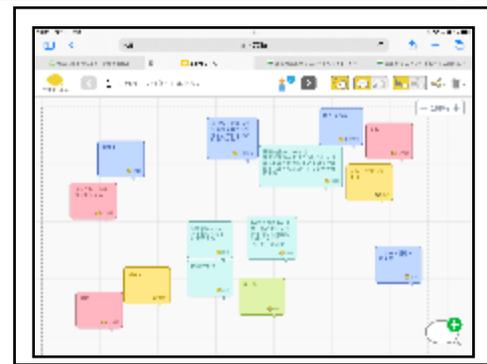
実践のタイトル		活発な意見交流をしよう					端末	<ul style="list-style-type: none"> • iPad • プロジェクター
広島県立三原特別支援学校					ICT活用 の視点	<ul style="list-style-type: none"> ■【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため □【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため 	OS	<ul style="list-style-type: none"> • AppleOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部	<input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高	学年	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年				
教科等	総合的な探究の時間							
単元名	探究課題Ⅲ							
実践の概要	作業学習で作った商品の知名度を効果的に上げるためにはどうすればよいかという課題で話し合いをした。みんなの意見を出し合ってまとめていくために「ふきだしくん」を使って意見を出し合いまとめていった。							



KJ法で活発に意見を出すことはできるが、思いついたままの意見で理由や根拠といったものがないものが多かった。



こういった視点をもって考えればいいのか考えればいいのかを示すことでこういった考えで自分の意見を出せば良いかを考えさせることができた。



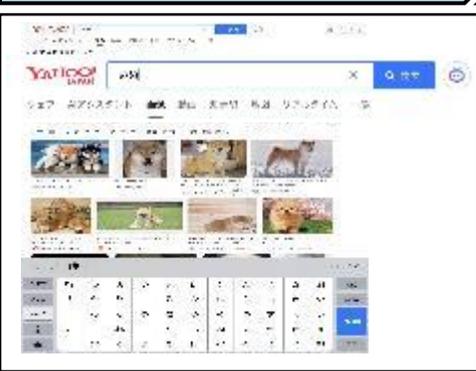
②の写真の上にふきだしくんをプロジェクターで投影して自分たちの意見を交流させていった。自分意見や他の生徒に意見を動かしながら理由を添えて意見交換ができていた。



自分たちの出した意見を基にどんな活動ができるか調べていった。自分から主体的に動きお互いの意見を交流し合う姿が見られた。

児童生徒の変容 意見を求めても単語で終わることが多かったが、理由を言える生徒が増えてきた。また人と話し合うことが苦手な生徒が多かったが手元で見て直感的に動くことで活発に意見交流ができていた。

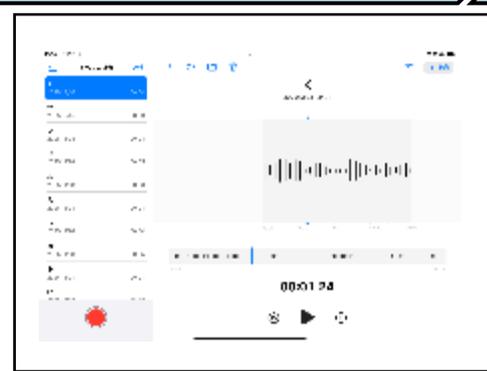
実践のタイトル		ibisPaint・ボイスメモを活用したオリジナルかるた制作				端末	・ iPad (第10世代)
広島県立三原特別支援学校大崎分教室		ICT活用の視点		<input checked="" type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	・ iPadOS17.3
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 単一障害学級 学部 <input checked="" type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年						
教科等	生活単元学習	学びの過程		<input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input checked="" type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る		ツールアプリ	・ iPad ・ タッチペン ・ ibis Paint ・ ボイスメモ
単元名	お楽しみ会をしよう						
実践の概要		単元「お楽しみ会をしよう」。地域の方に昔遊びのカルタを教わり、児童が題材を選んで絵札を手作り。名詞(例:「い→犬」)を画像検索してibisPaintでオリジナルの絵札を作り、読み札はボイスメモで録音・再生可能に設定。参観日には保護者と共に遊び、自分自身もゲームに参加しながら伝統理解や参加者との交流を深めることができた。					



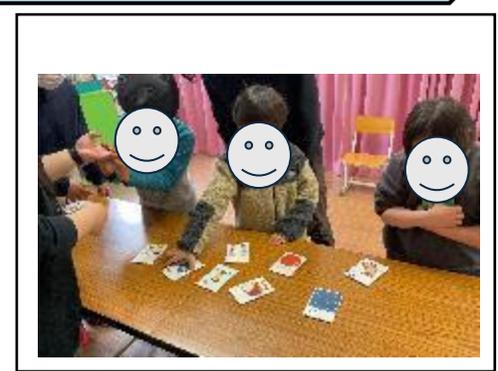
タブレットで50音キーボードを使って名詞を検索した。最初は自分のイメージに合った画像を見つけると、教師の支援を受けながら選択して保存していたが、繰り返すことで検索から保存までを一人で行うことができた。



取り込んだ画像を下地にタッチペンで輪郭をなぞり、拡大や「戻す」などの機能を使い、着色して絵札を作った。何度でもやり直せるため、失敗が苦手な児童も主体的・創造的に描き、細部へのこだわりも見られた。



児童がボイスメモで読み札を録音し、不要部分をトリミングしてファイル名を整備した。上手く言うことができないと自分で撮り直し、上手く言えたときには何度も繰り返し聞きながら笑顔を見せていた。



教室でタブレットの再生機能を使い、録音した読み札に合わせて児童が手作り絵札でカルタを実施した。録音により読み方が安定するため聞き取りやすく、また、言い方も手掛かりにして札を取ることができた。

児童生徒の変容 児童は家庭でもiPadを使用しているため、操作方法についての基礎ができていた。そこで活動のための具体的な操作方法を教えることで、とても主体的に学習に参加することができた。特にペイントアプリやボイスメモを使用しているときは失敗を恐れずに操作できることで、自分で様々な工夫を試す姿も見られた。また、完成したカルタと一緒に遊び、手作りカルタを実施し賞賛されることで協働性や自己肯定感が高められた。

実践のタイトル		学習アプリ「レジスタディ」を使って、商品の注文をしよう				端末	・ タブレット端末
広島県立呉特別支援学校		ICT活用 の視点		<input checked="" type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	・ iPadOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 単一障害学級 学部 <input checked="" type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年						
教科等	生活単元学習	学びの過程		<input checked="" type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る		ツール アプリ	・ レジスタディ
単元名	町探検をしよう						
実践の概要	校外学習での飲食店での昼食に向け、学習動画「お金のべんきょう」を用いて金種やお金の単位について学び、学習アプリ「レジスタディ」を使って自分でメニューを選び、必要な金額を把握する学習をした。これらの実践的な学習を通じて、校外学習で商品を注文するための基礎的な能力を養った。						

① 金種について知る。

② 注文の仕方を知る。

③ 注文の練習をする。



①取り組みの説明
学習動画「お金のべんきょう」(YouTube)を視聴し、金種やお金の単位について学習を行った。

②活用の具体的な様子
お金の単位や金種について、童謡や楽しいリズムで学習したことで、記憶に定着し、楽しみながらお金について学習している様子が見られた。

学習アプリ「レジスタディ」

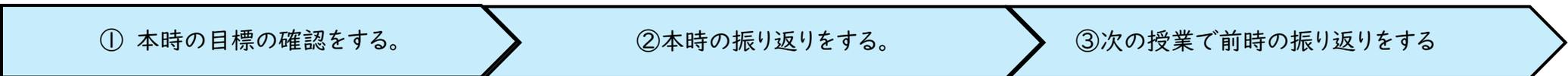
飲食店の中のたくさんあるメニューの中からいくつかを抜粋した商品一覧を作り、注文の練習で使用した。買いたい商品の画像をタップすると、金額が表示される。

①取り組みの説明
学習アプリ「レジスタディ」を使って注文練習をした。

②活用の具体的な様子
買いたい商品を自分で選んで、画面を押すことができた。必要な金額を授業者と一緒に画面を見ながら、確認することができた。

児童生徒の変容
学習アプリ「レジスタディ」の使用により、商品を選ぶ力や必要な金額を把握する力を身に付けることができた。また、学習動画「お金のべんきょう」とお金カードを併用することで、異なる金額を理解し、商品の値段に応じて正確に支払うことができるようになった。

実践のタイトル		モニター提示を活用した学習の見通しをもたせる指導の工夫				端末	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニター ・ タブレット端末
広島県立呉特別支援学校		ICT活用 の視点	<ul style="list-style-type: none"> ■【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため □【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため 	OS	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPadOS 		
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 単一障害学級 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年			学びの過程	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関心を持つ、見通しをもつ □ 調べる、集める □ 話し合う、交流する □ 分析する □ 発表する、表現する ■ 振り返る 	ツール アプリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーノート
教科等	生活単元学習						
単元名	家庭生活(食)②						
実践の概要	本単元では調理実習を含むため、食事の大切さや役割について学び、栄養バランスの良い「元気になるピザ」のレシピを作成した。電子黒板やタブレット端末を使用して、目標やピザ作りに必要な具材を確認した後、各生徒が具材カードを使って自分オリジナルのレシピを考えた。その後、発表形式で他の生徒とアイデアを共有し、教科書を活用して具材以外の必要な材料や道具を調べ、それらの使い方について確認した。最後に、モニターとタブレット端末を使用し、学習の振り返りや次回の学習予定について確認した。						



①取組についての説明
 本時の目標や食についての意義、ピザを作る具材について確認する際にモニター使用した。
 ②生徒の反応
 視覚的な情報から、目標等を丁寧に声を出しながら確認していた。見通しをもって、主体的に学習していた。



①取組についての説明
 本時の振り返りや今後の学習の予定を確認するために使用した。
 ②生徒の反応
 電子黒板に注目しながら、授業者の話を集中して聞いていた。それぞれ振り返りを行い、視覚的な情報を大きく提示したことで、共通理解を図ることができた。



①取組についての説明
 本時の目標や食についての意義、ピザを作る具材について確認する際にモニター使用した。
 ②生徒の反応
 視覚的な情報から、目標等を丁寧に声を出しながら確認していた。見通しをもって、主体的に学習していた。

児童生徒の変容
 授業者が導入部分で目標を分かりやすく提示したことで、生徒が見通しをもって意欲的に学習することができた。その際に、生徒の実態に応じて、電子黒板やタブレット端末を使用したことで、生徒は不安感を感じることなく授業に臨んでいた。適切なICT機器や教材、調理道具の実物を提示しながら授業を展開したことで、ピザ作りに必要なレシピや調理道具の使用法等について考え、それぞれの生徒が自分の言葉で発表することができた。

実践のタイトル		VOCAを使って会を進行したり、自分の気持ちを表現しよう				端末	<ul style="list-style-type: none"> VOCA 携帯用会話補助装置 ステップバイステップウイズレベル 	
広島県立呉特別支援学校		ICT活用 の視点	<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、 情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は 生活上の困難さを改善・克服するため					OS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 重複障害学級		<input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高	学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	学びの過程			
教科等	日常生活の指導 自立活動					ツール アプリ		
単元名	朝の会・帰りの会 自立活動							
実践の概要	発語がない生徒の主体的な動きを引き出し、学習への参加やコミュニケーションを支援するためVOCA(携帯用会話補助装置)を活用した。朝の会や帰りの会で司会をしたり、シーツブランコ等の活動で自分の気持ちを表出し、動作と意思表出を関連付けた活動を繰り返し実施している。							

①朝の会・帰りの会の進行



- ①取組の説明
VOCAをほぼで押すことで作動させ、朝の会や帰りの会の司会をしている。
- ②活用の具体的な様子
繰り返して取り組むことで、ほぼでVOCAを押すことができる場面が多くなった。

②生徒に合った方法で玩具を操作



- ①取組の説明
VOCAを押すことで音を出したり玩具を光らせたり動かして楽しむことにも取り組んでいる。
- ②活用の具体的な様子
繰り返して取り組むことで、ほぼでVOCAを押すことができる場面が多くなった。

③シーツブランコで気持ちを伝える

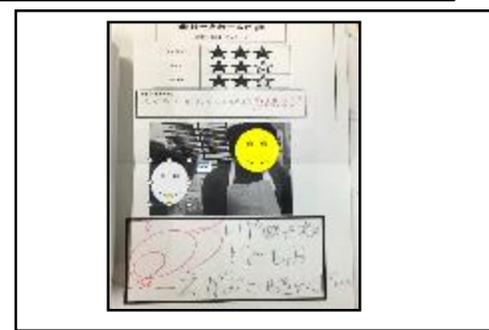
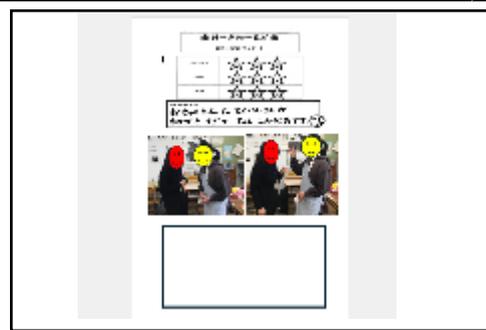
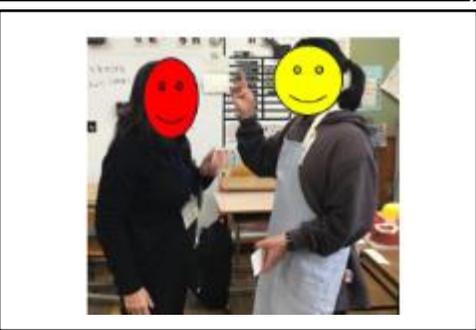


- ①取組の説明
毎日、大好きなシーツブランコをすることをVOCAを押すことで 要求する場面を作っている。押さない場合は、シーツブランコはやらない。
- ②活用の具体的な様子
覚醒レベルが高いときは、随意的にVOCAを押そうとする様子がよく見られるようになった。

児童生徒の変容

現段階でVOCAを押しやすい動きは、顔を左右に動かしてほぼで押すやり方である。朝の会や帰りの会では、VOCAを押して会を進める機会を習慣化したことで、少しずつ顔を動かす場面が多くなり、生徒主体で会を進行できる場面が多くなった。シーツブランコでは、覚醒レベルが高いときは随意的にVOCAを押そうとする様子がよく見られ、「シーツブランコやりますか。」の言葉掛けに「あー」という発声が出るようになった

実践のタイトル		タブレット型端末のカメラの効果的な活用の仕方				端末	・ タブレット型端末
広島県立呉特別支援学校江能分級		ICT活用 の視点	■【視点1】教科指導の効果を高めたり、 情報活用能力の育成を図ったりするため □【視点2】障害による学習上又は 生活上の困難さを改善・克服するため			OS	・ 14.71
□視覚障害 □聴覚障害 ■知的障害 □肢体不自由 □病弱・身体虚弱	類型 II 類型		■小 □中 □高	学年	□1年 □4年 □2年 ■5年 □3年 ■6年	ツール アプリ	・ カメラ
教科等	遊びの指導	学びの過程			■関心をもつ、見通しをもつ □調べる、集める □話し合う、交流する ■分析する □発表する、表現する ■振り返る		
単元名	お店屋さんごっこ②						
実践の概要	どの端末にも標準で装備されているカメラを効果的に活用することで、児童が客観的に自分を確認し、共に分析を行うことで、自分で改善できる支援をする。						



撮影した写真を確認することで、児童自身で自らの課題に気付く支援をすることができる。

撮影した写真を活用してワークシートを作成し、客の声を自分の実際の姿を踏まえながら振り返らせることができる。

改善した姿を客観的に本人が確認できることで、次の活動時に「より良い姿」を児童自身がイメージしやすくなる。また本人だけではなく、相手の表情等を併せて撮影することで、「良くできた。」等という実感がもちやすい。

改善した姿を児童に提示したり、相手の評価を併せて提示したりすることで、自分の姿とその評価との関連(ポイントや理由など)を確認しやすくなる。

児童生徒の変容
最初は、自分の工夫が客にとって、かえって分かりづらくなってしまっていたということに児童が気付けなかったが、写真で自分の様子(写真)と相手の反応を併せて確認することで、自ら課題に気づき、改善策まで自分で考えることができた。また、写真で提示したことで、「どの場面のどの行動が良かったのか」を児童自身が理解することができていた。

実践のタイトル		児童が分かって動ける!タブレット型端末を活用した朝の会				端末	• iPad
広島県立庄原特別支援学校		ICT活用 の視点	<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、 情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は 生活上の困難さを改善・克服するため			OS	• iOS18.2
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部 <input checked="" type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高					学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input checked="" type="checkbox"/> 6年	学びの過程 <input checked="" type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input checked="" type="checkbox"/> 調べる、集める <input checked="" type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input checked="" type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る
教科等	日常生活の指導	実践の概要					
題材名	朝の会	タブレット型端末を活用することで、障害による様々な学習上の困難を改善している。「朝の会進行表」のめくりにくさにストレスを感じる児童、発語による司会進行に困難さがある児童も朝の司会ができるように、ワンタッチでめくれる音声付き手順表『keynote』を活用。また、読字に困難さがある児童は、イラストで天気分かるwebサイト『SORAKIDSα』を活用。そして、『えにつき』『写真』で写真を表示しながら朝のスピーチをすることで、話し手は「いつ・どこで・だれと・どうしたのか」を意識しながら話しやすく、聞き手は見て聞いて分かるようにしている。					



・『keynote』は、ワンタッチで進行表をめくることができるため、めくる際のストレスがなくなった。
 ・発語による司会進行に困難さがある場合においても、ワンタッチで『keynote』から音声を再生することができ、クラスの皆にとって分かりやすくなった。



・『トルミル』に前もって保存したYoutubeの動画で、児童の好きな歌を歌ったり踊ったりすることで、楽しく、元氣よく朝の会が始まる。
 ・多くの子ども向けの歌にはひらがなの歌詞がついており、カラオケ感覚で分かって歌うことができる。



・児童は、iPadのホーム画面のショートカット『SORAKIDα』をタップするだけで、読字に困難さがある子ども、視覚的に庄原市の今日・明日の天気と現在発令されている注意報・警報が理解できる。

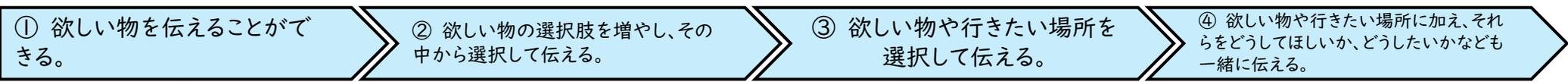


・小6の児童は、日頃から学習の成果をiPadの『写真』に保存したり、『えにつき』にまとめたりしている。それを朝のスピーチで活用することで、話し手は写真を見ながら話すことができ、「いつ・どこで・だれと・どうしたのか」を意識して話しやすくなる。聞き手は、視覚的にも話を理解することができる。

児童生徒の
変容

障害による学習上の困難さが改善されたことで、児童達は主体的に朝の会を進行している。自分でiPadをApple TVに接続したり、操作方法を教え合ったり、「今日はどの歌を歌おう。」と『トルミル』を操作したりしている。また、朝の会以外でもiPadを効果的に活用する姿が見られるようになった。休憩時間中、外で遊べるかどうかを知るために、雨雲レーダーで雨が降り始める時刻を調べたり、「朝の会でこれ話そう。」と学習の成果物等を写真に撮ったりしている。

実践のタイトル		要求を伝えよう				端末	• iPad
広島県立広島北特別支援学校		ICT活用 の視点	<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、 情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は 生活上の困難さを改善・克服するため			OS	• iPad OS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部		<input checked="" type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	学年	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	ツール アプリ	• Drop Tap
教科等	日常生活の指導		学びの過程			<input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る	
単元名	なし(余暇)						
実践の概要	児童が自分の意思を伝える力を育てられるようにと考え、この実践に取り組んだ。視覚的で直感的に「選ぶ」「伝える」ことができるアプリ「Drop tap」を活用した。「コミュニケーション」ボードに選択肢を設け、児童がタップ操作で自分の意思を伝えることができた。						



・「Drop Tap」の「コミュニケーション」ボードに好きな物1つを設定し、タップで名前が読み上げられる。
 ・児童は抵抗なく操作し、反応を楽しみながら繰り返す中で理解が見られた。



・「Drop Tap」の「コミュニケーション」ボードに好きな物を複数設定し、欲しい物をタップで名前が読み上げられる。
 ・児童は複数の選択肢から自分なりに今欲しい物を考え、選択して伝えるようになった。



・「Drop Tap」の「コミュニケーション」ボードに好きな物や行きたい場所を設定し、タップで名前が読み上げられる。
 ・児童は抵抗なく操作し、繰り返し行うことで、行きたい場所についても伝えることが増えた。



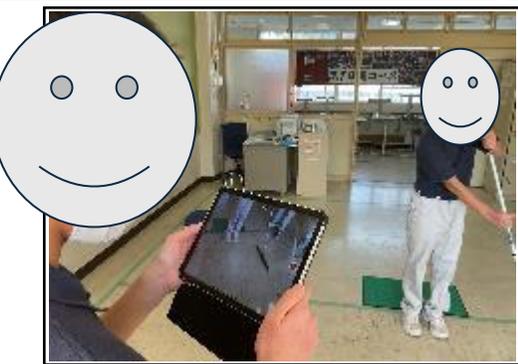
・「Drop Tap」の「コミュニケーション」ボードに好きな物や行きたい場所、どうしてほしいか、どうしたいかなどを設定し、タップで名前が読み上げられる。
 ・現在、取り組んでいる。

児童生徒の変容 実践を通して、児童に変化が見られた。これまで言葉や身振りでの意思表示が少なかった児童が、「Drop tap」を使って欲しい物や行きたい場所、してほしいことなどを伝えるようになった。選択肢からタップして伝える経験を重ねることで、自信をもって意思を表す姿が増えてきつつある。

実践のタイトル		技能検定:動画と評価で深める振り返り				端末	<ul style="list-style-type: none"> iPad
広島県立広島北特別支援学校		ICT活用の視点		<input checked="" type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため		OS	<ul style="list-style-type: none"> iPadOS18.5
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 知的障害 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高 学年 <input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年						
教科等	作業学習						
単元名	清掃をしよう②						
実践の概要	技能検定練習において、試技者の様子をビデオ撮影し、各自がその映像を見ながら、フォームで自己評価や改善点を入力した。また、評価表にはスプレッドシートを使用した。						



前期自分の間違っていた項目を入れたり、入力に時間がかからないようにしていた。



振り返りがしやすいよう、ほうきの握り方や角まで掃けているか確認しやすいように撮影していた。



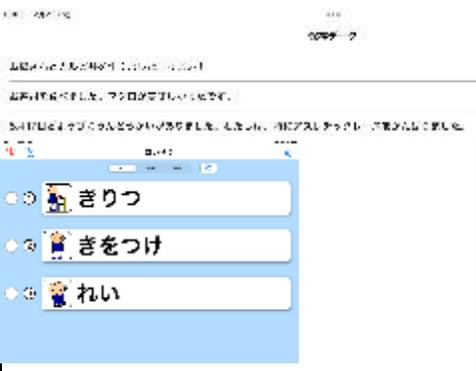
評価表をスプレッドシートで入力することにより、すぐに級がわかるようになった。



動画や文字で確認しながら振り返ることにより、自分の改善点が明確になった。

児童生徒の変容 動画を見ながらの振り返りのため、自己評価、改善点が客観的にできていた。また、スプレッドシートによって集約・可視化が容易となり、効率的なフィードバックや評価作業ができるようになった。自己評価の客観性ができるようになったため、改善点も明確に言えるようになった。

実践のタイトル		「伝えたい。思いがある。」				
広島県立沼隈特別支援学校				ICT活用の視点	端末	<ul style="list-style-type: none"> iPad
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱		類型 学部 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 小 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 	学年 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年 		<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため	OS
教科等	日常生活の指導、生活単元学習			学びの過程	ツールアプリ	<ul style="list-style-type: none"> 棒読みアプリ ドロップタップ ファイル
単元名	学習発表会を成功させよう					
実践の概要	発語しなかったり、発語が不明瞭な生徒への支援 読み上げ機能、ボタン作成をして生徒の思いの聞き取りや発表を支援した。					



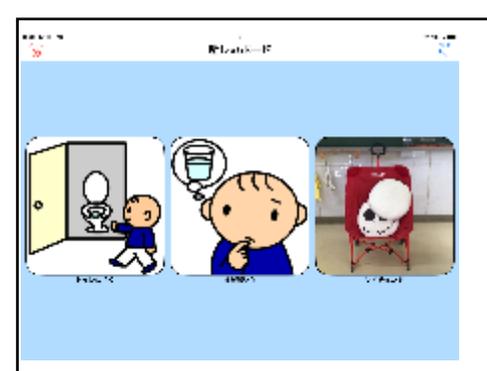
棒読みアプリで自己紹介をしたり、ドロップタップで朝の会の司会をしたりして、アプリの操作に慣れさせた。



ドロップタップで修学旅行の思い出に残った場所の聞き取りをした。



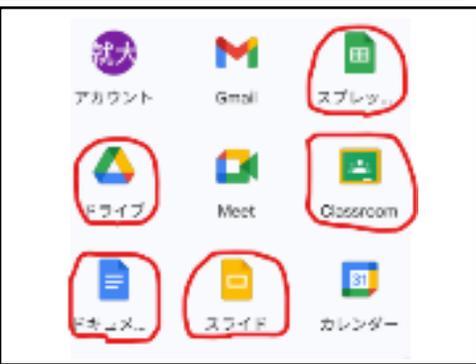
学習発表会のセリフを棒読みアプリで音声化し、ファイルに保存・再生した。



トイレに行きたいことや作業が終わった報告等、日常的に使用させている。

児童生徒の変容
 アプリの操作を自分でできるようになった。iPadを使うことで正しく伝わり、発表や司会を自信をもってできるようになった。3年間関わっている外部の専門家の方から、「言葉の数が増えた。発語が明瞭になった。」と評価していただいた。

実践のタイトル		Googleスライドを使ってプレゼンテーション作成、発表				端末	・ iPad (教員、生徒)
広島県立沼隈特別支援学校		ICT活用の視点	<input checked="" type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため			OS	
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高		学年 <input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	<input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input checked="" type="checkbox"/> 調べる、集める <input checked="" type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る			ツール アプリ
教科等	総合的な探究の時間				学びの過程	ツール アプリ	
単元名	福山の魅力発見						
実践の概要		入学生のため4月の段階で手順書を確認しながら、「Googleへのログイン方法」「Googleworkspaceの使い方」「ネットの写真保存の仕方」などを定着させ、スライドを作成する準備を行った。 Googleスライドを使用しリアルタイムでプレゼンテーションを共同作成する。数名の生徒には読み上げアプリを使って発表を行った。					



授業で使用するGoogleworkspaceやアプリ、ネット検索など全体でデモンストレーションを行いながら使用の定着を図った。



事前に自分が担当する項目を選択させる。それに関する調べる内容を複数個用意しワークシートを準備する。その中からインターネットを使って調べ学習を進め、調べたことをワークシートに箇条書きで書き起こしワークシートを完成させさせる。



完成したワークシートを見て箇条書きを文章にしながラスライドに打ち込んでいく。個人作業にはなるが黙々と作業に集中しているように感じた。文字の大きさや色を変えたり自分の好きな写真を挿入したりと他の生徒のスライドを見ながら工夫する姿が見られた。



学級に1人発言の難しい生徒がいるため発表時は「読み上げ」というアプリを使って発表を行った。自分で打ち込みはできるため事前にスライドとリンクするように文章をアプリに打ち込んだ。朝の会や帰りの会でも使用しているため、スムーズに実施することができた。

児童生徒の変容 Googleスライドを使用することでリアルタイムでの共同作成ができ作業をスムーズに行うことができた。教員側は手元の端末で生徒のスライドをチェックすることができるので指導の時間を効果的に配分することができた。また発言の難しい生徒でも作業中に他の生徒のスライドを見たり真似たりと、対話がなくとも対話的な協働的な活動ができたように感じた。またモニターに投影した際各生徒の端末と同じスライドを投影するため生徒はモニターを見ても自分の端末を見てもわかりやすい方を選び、生徒にとって選択の幅が広い授業を展開することができた。

実践のタイトル		季節を楽しむ				端末	・ iPad (第7世代)
広島県立黒瀬特別支援学校				ICT活用 の視点	■【視点1】教科指導の効果を高めたり、 情報活用能力の育成を図ったりするため □【視点2】障害による学習上又は 生活上の困難さを改善・克服するため	OS	・ 18.5
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱		類型 単一障害学級 学部 ■小 □中 □高 学年 □1年 □4年 □2年 ■5年 □3年 □6年	学びの過程 <input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input checked="" type="checkbox"/> 調べる、集める <input type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る				
教科等	生活単元学習					ツール アプリ	・ Yahoo!キッズ ・ トルミル ・ カメラ / カメラロール ・ 日本郵便キッズサイト
単元名	ふゆのくらし						
実践の概要		・「冬」の食べ物や行事、遊び等について調べる学習を行い、それを基にお楽しみ会を行った。 ・年賀状をタブレット端末を使って作成した。					



「なつのくらし」の学習でも調べ学習を行った経験があるため、タブレット端末を使って各自「冬のもの」について調べた。「Yahoo!キッズ」で検索することで漢字が読めなくても振り仮名を頼りに自分で進められた。



どんな会で何をするか、そのために必要な準備は何か、ゲームは何をするかについて、検索した画像をヒントに話し合った。画像を検索しながら「これがいい!」という児童からの積極的な発言が印象的だった。



児童から「歌を歌いたい」と意見があったため、「トルミル」のアプリでクリスマスソングの動画を保存し、繰り返し練習した。当日は、「カメラ」アプリで記念写真を撮影したり、サンタ帽子等を被った友達を撮影したりした。



調べ学習で「年賀状」についても触れ、友達に向けて作成した。「日本郵便キッズサイト」の「お手紙作成ツール」を使って各自タブレット端末で年賀状を作成した。スタンプや背景を選ぶだけなので、文字の理解が難しい児童も意欲的に取り組んでいた。

児童生徒の変容
 タブレット端末を使い始めたときは、「Youtube」を開きたくてタブレット端末が目に入るたびに癩癩を起こしていた児童もいたが、約束や手順をしっかりと指導してから使うことで、次第に学習内容に沿って扱えるようになった。「Yahoo!キッズ」やカメラアプリはよく使用しているため、文字入力等の基本的な操作の仕方は理解しており、学習の中身に集中して取り組んでいた。紙での学習より色や動きがあり、多くの情報から選択できるため楽しんで学習することができていた。

実践のタイトル		「後輩や仲間のため」の動画作成		端末	・ iPad
広島県立黒瀬特別支援学校のみのお分校		ICT活用の視点	<ul style="list-style-type: none"> ■【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため □【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため 	OS	・ iPadOS 18.7.3
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 I 類型 学部 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 高 学年 <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年			学びの過程 <input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input checked="" type="checkbox"/> 調べる、集める <input checked="" type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input checked="" type="checkbox"/> 分析する <input checked="" type="checkbox"/> 発表する、表現する <input checked="" type="checkbox"/> 振り返る	ツールアプリ
教科等	作業学習				
単元名	作業演習⑥				
実践の概要	技能検定を終えた第3学年の生徒が、後輩等に向けて技能検定各種目の解説動画を作成した。試技の動画の撮影、解説内容の精選、動画編集等も生徒が意見を出し合いながら進めた。				

① 試技動画の撮影



- ・カメラアプリで試技の動画を撮影する。
- ・見る人にとって分かりやすいように画角を調整したり撮り直したりする姿が見られた。

② 解説内容の精選



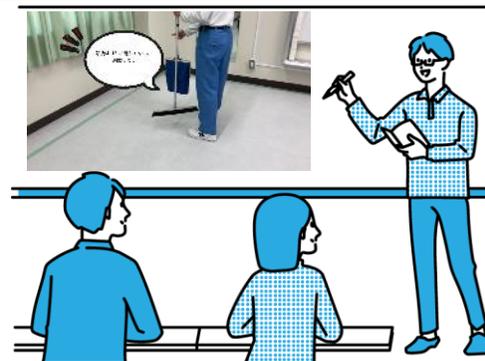
- ・アイビスペイントで動画の題字やアドバイスポイントを吹き出しに書いた。
- ・タッチペンや指を使ったり、文字入力機能を使ったり、自分にとって扱いやすい方法や伝わるように試行錯誤する姿が見られた。

③ 動画編集



- ・iMovieで動画編集を行った。
- ・②で作成した画像を取り込んだり、試技の動画の速度を変えたりする等、工夫しながら編集を進めた。

④ 後輩へ提供



- ・「後輩や仲間のために」という目標が生徒たちのモチベーションとなっており、意欲的に取り組むことができた。

児童生徒の変容

「後輩や仲間のために動画を作る」という生徒にとって大きな目標となった。12/24の最後の種目まで意欲的に練習に取り組むことができた。動画編集においても、相手に伝わりやすいようにふきだしや動画の速度などを意見を出し合いながら試行錯誤する姿が見られた。

実践のタイトル		ZoomやMeetを活用して訪問生が行事に参加できました				端末	・ iPad
広島県立呉南特別支援学校		ICT活用 の視点	<input type="checkbox"/> 【視点1】教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため <input checked="" type="checkbox"/> 【視点2】障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため			OS	・ iOS
<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱	類型 訪問		学部 <input type="checkbox"/> 小 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	学年 <input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 6年	学びの過程 <input type="checkbox"/> 関心を持つ、見通しをもつ <input type="checkbox"/> 調べる、集める <input checked="" type="checkbox"/> 話し合う、交流する <input type="checkbox"/> 分析する <input type="checkbox"/> 発表する、表現する <input type="checkbox"/> 振り返る	ツール アプリ	・ Google Meet ・ Zoom
教科等	自立活動 日常生活の指導						
単元名	挨拶 コミュニケーション						
実践の概要	訪問生は指導形態上、同学年、同学部の生徒同士との人間関係が希薄になりやすいが、遠隔（リモート）で参加している側にとって、同年代の生徒の声や会場のざわめきはよい刺激になっただけでなく、学校の生徒達にも友達の広がり等よい影響が見られた。						



新入生歓迎会に参加
 ・生徒の声を聞いて驚いた表情をした。
 ・学校の生徒がとても興味をもってスクリーンを見ていた。



中学部運動会に参加
 ・会場の臨場感を楽しんでいた。
 ・スクリーン越しであったが、保護者の反応もあって、会場が一体となった。



創立10周年記念行事に参加
 ・生徒挨拶後の拍手を聞いて、驚いたような反応があった。
 ・生徒宅での視聴だったので保護者の関心も高かった。



文化祭練習に参加
 ・訪問生による動画での演奏を実際の演奏に重ね合わせることで、発表が一体のものとなり、本番通り練習できた。

児童生徒の変容
 画面から伝わる人の声や拍手を聞いて、驚いているような生徒の反応が見られて、学校の生徒達との繋がりを声や映像で意識していたと思われる。また、学校の生徒達にとっても、よい交流及び共同学習の機会となっていた。